

# 「みんなで築こう男女共同参画社会」

## 平成28年度公開授業実施報告

福島県教育委員会

「女はこうあるべき」「男はこうあるべき」などのように性別による固定観念にとらわれず、男女が社会の対等な構成員として自分らしく生きることができ、あらゆる分野で共に考え、共に行動し、共に責任を担う社会、「男女共同参画社会」の実現が望まれています。男女共同参画社会の推進は、学校、家庭、地域のそれぞれにおいて行う必要があります、その実現には、一人一人が正しい認識をもつことが大切です。

そこで、小・中・高等学校において公開授業を実施し、児童、生徒のみならず、保護者や地域住民の方々に対し、男女共同参画社会について理解を深めていただきました。

### 実 施 校

県内4地区8校で実施しました。

#### 県 北

本宮市立本宮第二中学校  
社会（公民的分野）第3学年  
「人権と共生社会」

県立福島東高等学校  
家庭（家庭基礎）第1学年  
「高齢社会を生きる」  
～高齢社会を支える仕組みと  
家族の役割～

#### 県 中

鏡石町立第一小学校  
道徳 第2学年  
「よいところを伝え合おう」  
～あなたって  
こんなにすてきだよ～

県立郡山東高等学校  
総合的な学習の時間 第1学年  
「みんなで築こう  
男女共同参画社会」

#### 会 津

西会津町立西会津中学校  
道徳 第3学年  
「男女の理解」  
～自分も相手も大切に～

県立葵高等学校  
公民（現代社会）第1学年  
「日本国憲法と基本的人権」  
～「女性が社会で感じる抑圧」  
について考えてみよう～

#### い わ き

いわき市立宮小学校  
家庭科 第5学年  
「食べて元気に」  
～バランスのとれた  
食事について考える～

県立いわき光洋高等学校  
保健体育（保健）第2学年  
「生涯にわたる健康づくり」  
～男女共同参画社会が  
私たちにもたらす健康～

#### 実施状況

日本国憲法の学習の一環として、男女がともに尊重される社会づくりには、どのような制度があるのかを知り、自分や社会全体はどのように行動すべきか考えさせる授業を行った。

まず、本県の男女の賃金格差を確認し、「なぜ男女に差があるのか」を考えさせた。次に、男女平等の日本国憲法上の位置づけや国の法整備について確認した。さらに、男女共同参画社会を実現するためにできることを、「自分ができること」と「社会ができること」に分けて考えさせた。

子どもたちからは、保育所の整備や女性の管理職の数を増やすといった社会の構造変化の必要性、女性への差別意識をなくすことや選挙の際に男女平等を公約にする候補者に投票するなどの多くの意見が出た。男女が共に活躍できる社会の実現のために主体的に行動する意識を高めることができた。

#### 児童生徒の感想

- 自分が思っている以上に男女での扱いに差があることがわかってびっくりした。男女平等の問題がこんなに深刻だとは思わなかったので、自分にできることをやっていきたい。
- 差別のない社会を実現するために何ができるのかということを探し続けるべきだと思った。
- 男性と女性の格差は大きいかもしれないけれど、男女共同参画社会基本法でその差が少しでも小さくなったらいいと思った。
- 社会の抱える問題についてこの授業で改めて知ることができた。男女の問題のように現代社会の課題を理解しながら、解決策を探していきたい。

#### 参観者の感想

- 親和的な学級集団で、話し合いがしっかりと行なわれていた。資料をもとに男女共同参画社会について子どもたちがよく考えていた。
- 社会科で男女共同参画社会を題材にした授業公開はあまりないので参考になった。
- 福島県のデータを資料として使用したことで、子どもたちが身近な問題として男女の問題を考えることができた。

#### 指導者の感想

男女平等は、これまでの生活の中で経験的に当たり前のこととして子どもたちは認識している。しかし、実社会では男女平等や男女共同参画社会の実現は達成されていないことに授業を通して気づくことができた。また、授業の中で、子どもたちが男女の良さを尊重しながらともによりよい社会の実現に向けてどのようにすべきかを話し合う姿がみられた。社会科の授業として、現代社会の問題に目を向け、主体的に社会参加する資質を育てるよい機会となった。

今後も男女共同参画を意識し、社会科のみならず他教科との連携を図りながら、男女が共に活躍できるよう指導していきたい。

### 実施状況

家庭基礎は、男女共同参画社会の推進をふまえて、「男女が協力して家庭や地域の生活の向上を図る能力と実践的態度」を育成することを目指している。

この単元においても、高齢者福祉の現状と課題をふまえながら、男女が共に果たすべき家族の役割について考えさせるために、高齢者と暮らす家族の事例をあげ、そこから家族および高齢者の抱えている問題点を読み取らせた。また、介護保険サービスを利用しながら在宅で介護をしていくことを想定し、家族にできる介護計画を立てさせた。特に、高齢者本人の思いを大事にしながら家族にできることを具体的にあげ、付箋紙を利用して発表させた。生徒からは様々な意見が出された。しかし、家族の介護や看護を理由とした離職・転職者は女性に多く、主な介護者も女性が多いという現状についても考えさせた。最後に、高齢者を支える社会的な支援のあり方や地域の役割についてまとめた。



### 生徒の感想

- 男女で介護していくために、社会全体の雰囲気とか国の制度とか、もっと変わるべきだと思う。
- 介護は一人の力では大変。一人だけに押しつけずに、男女関係なく、家族で分担しながら協力し合ってやらなければならないと思った。
- 家族みんなで介護すべきだと思う。自分も将来助けあって介護していきたい。
- 高齢者を介護するのは大変だけど、サービスを利用しながら皆で役割分担していけばなんとかなると思った。すぐに施設の利用を考えず、家族で話し合っただけ一緒に生活できるようにしたいです。
- 日本は高齢化が進んでいるが、これからの社会で大切なのは、若い人達が協力して介護をすることだと思う。一人だけに任せず、男女関係なく、介護に参加していくべきだと思う。



### 参観者の感想

- 生徒の意見を引き出し、発展させ、次へと導いていく生徒主体の授業だった。資料、ワークシート、付箋紙を活用し、理解を深めさせ、生徒の思いやりややさしさなどの意見が出され、生徒と先生の温かな会話等、この単元に必要な大切なものが盛り込まれていたと思った。
- 介護の問題と男女共同参画社会をうまく盛り込んだ内容であったが、ボリュームが多いようにも感じた。付箋紙の使い分けなど工夫されていた。
- 生徒が一生懸命考え、答えている姿に感嘆しました。まだ実感として捉えきれない問題かも知れませんが、今の学びがきっと将来役に立つと思います。

### 指導者の感想

家事や育児ばかりでなく、介護についても男女が協力して取り組むことの必要性について考えさせたいと思い、男女共同参画社会と高齢社会を結びつけた授業を展開した。家庭においては、一人の加重負担にならないように、男女ともに協力して介護することの大切さについて考えさせることができた。今後も各分野において、男性も女性も、そして高齢者も障がい者も、だれもが暮らしやすく輝ける社会をめざし、考え実践していけるよう、指導していきたい。

### 実施状況

#### ○ ねらい

人には皆長所があることを知り、自他を肯定して生活する心情を養う。

#### ○ 授業内容

【導入】 今までの生活の中で撮影しておいた児童の頑張っている様子、助け合っている様子の写真を提示し、友だちのよいところ探しをする意欲を高めた。

【展開】 グループの友だちのよいところを探して花びらに書き、その花びらを交換することで、他を尊敬する気持ちを持って活動することができた。さらに、友だちにを見せてもらった自分のよいところで一番うれしかったことを選び、発表することで自己肯定感をもつことができた。

【終末】 友だちのよいところを見つけたこと、また、自分のよいところを見つけてもらったことを振り返り、感想を書くことで自他の肯定感を高めることができた。



### 児童生徒の感想

- 私は、みんなにいいところを言ってもらったのがうれしかったです。自分ではいいところがわかんないけどみんなに言ってもらったのがうれしかったです。
- 友だちが優しくしてくれるから、こっちもうれしくなるから、ありがとうございます。
- みんな私のことを見ているんだなと思いました。自分からじゃ分からないけどいいところもあるんだなと思いました。
- 班のみんな、いつもありがとう。ぼくは、みんなの優しさがもっと分かるようになりました。これからもみんなで話し合ったりしよう。

### 参観者の感想

- 子どもたちと丁寧に対話していて、説明が分かりやすかったです。書いてもらった人だけでなく、シールを貼ったところを発表させることで、書いた人も自己肯定感を高められたのではないかな。
- 何より素晴らしかったのは、子どもたち一人ひとりが、自分らしく素直に表現できるところ、友だちの個性を尊重し、よさを認めることができるころだと思いました。
- 子どもたちの笑顔が何より素晴らしかったです。友だち同士でお互いをとても大切にしていることがわかりました。

### 指導者の感想

本学級は、日頃から男女の区別なく、仲良く助け合って生活しているが、改めて友だちのよいところを見つけ、それを伝え合うことで、男女がともに尊敬し合い、自分らしく生きることができるようになっていきたいと考えた。授業では、お互いのよさを書いた花びらを交換し、自分の花を咲かせることで、いままで気づかなかった自分のよさを発見し、書いてくれた友だちに感謝の気持ちを伝えた。

男女がともに尊敬し合う子どもたちの姿を見て、男女共同参画社会を推進することの重要性を実感した。





#### 実施状況

多くの女性にとって、社会は個性や能力を発揮することが難しい、ということを実感として掴ませ、その上で、男女が対等な人間として、社会のあらゆる分野において、共に責任を担うべき社会を作っていくには、どうすればいいのかを考えさせたい。このような思いで、この単元を設定した。

まず、現社会の授業の中で「両性の平等」について、法的な枠組みを確認した。その後、保護者へのアンケートを手掛かりとして、総合的な学習の時間において、男女の平等について意見を出し合った。本時は、それらを踏まえて男女共同参画社会をどのようにして作っていくのか、班ごとの話し合いを授業の中心にして、考えていくという趣旨で展開した。

#### 児童生徒の感想

- 私が普段生活している上では、あまり差別というものは感じないけど、社会には大きな差別が生じているのが分かった。（女子）
- 男女平等の社会をつくるためには、二つのことが必要であることが分かりました。一つは、国や職場が社会復帰した女性が働きやすい状態や制度をつくること。もう一つは、女性自身が強い意志をもって働くことです。（女子）
- 子供だけではなく、大人も「男女共同参画社会」ということについて、考えたり、話し合ったりしてほしい。（女子）

#### 参観者の感想

- 生徒に考えさせていくことの大切さを再確認した。言いたいことを言える雰囲気があった。話し合いの中で「気づき」があり、頼もしく思った。
- ポジティブアクションという視点を後で与えたが、1年生ということもあり、話し合いの最初から、テーマを明確にして話し合わせてもよかったのではないかと。
- 家に帰って話をしてほしいし、この取組を1年次だけで終わらせるのではなく、2年次、3年次と継続して学年として取り組むことによって、社会に出たときに、自分の問題として考えていくことにつながると思う。

#### 指導者の感想

3年生から、「男女の扱いで差別を受けたことがほとんどない」ということを聞いて、まずは社会の現状を実感させる必要性を感じた。授業で学習する内容が、単に暗記に過ぎないのでは、男女共同参画社会を考えることも難しいと考えたからだ。その意味では、保護者へのアンケートは有効だった。家庭でも、話し合う機会が生まれたという話も聞こえてきた。

事前の話し合いも、本時の話し合いも、予想以上に活発なものとなった。内容的には、実社会を経験していないので、それ程深いものではなかったが、自分たちの問題であるという意識を持つことは、多少なりともできたのではないかと。

#### 実施状況

自作資料「こんなとき、どう言う？」を通して、将来の男女共生の在り方について考えるため、「人間関係における3つのタイプの言動」から、性別にかかわらずお互いを認め合い、自分らしく生きていくことの大切さに気づくことをねらいとして授業を行った。

導入として、事前に記入した男女の役割についてのワークシートをもとに、身近な男女の共生場所としてのクラスの男女の様子について考えさせた。展開では、自作資料のAさんのパートナーのセリフについて、生徒の考えを人間関係における3つのタイプ別に書き、ロールプレイングを行うことにより、生徒自身が将来の男女共生の在り方について考え、実感し、性別にかかわらず、相手の気持ちを考えながらも、自分の言いたいことをきちんと伝えることの大切さに気づくことができた。

#### 児童生徒の感想

- 「女性だから」「男性だから」ということなく、お互いに協力し合っていくことが大切だと思った。これから、相手の立場も大事にして言葉かけをしていきたい。
- 社会は、男女が関わって成り立っているので、互いに尊重し合うことが大切であることを学んだ。
- 男女共に、相手の気持ちを尊重し、互いに認め合える存在でありたい。
- 男女の区別無く、互いに平等になることでよりよい生き方ができ、さらに、よりよい社会になると思った。

#### 参観者の感想

- ラポールが確立されていたことにより、話し合い活動やロールプレイが、とても有効に機能していた。
- 机の配置や形態がよかった。中央を空けて舞台を作る形にすることにより、演じる方も見る方も緊張せずにできた。
- 自作のワークシートが身近な内容であり、本時のねらいに迫るものになっていた。
- 話し合い活動の時間を、もっととった方がよかった。生徒の考えや意見から授業を組み立ててほしかった。まとめも教師からではなく、生徒からまとめ上げられるとよかった。

#### 指導者の感想

「教師のための次世代育成人権セミナー」などに出席して、男女の共同参画についてお話を聞いてきたが、自分自身が「～らしさ」を払拭し切れていないため、授業でも男女の平等さについて、教師側の思いを伝えられなかったように感じる。指導助言にもあったが、まずは教師側がきちんと研修を受けて学習する必要があると思う。そして、生徒の身近な話題で、学ばせるべきであると考え。本学級は、ある程度の道徳性が身につけているので、より深まりのある話し合いが今後も必要である。

### 実施状況

事前にクラスで実施した「男女どちらの役割・日常活動か第一印象で答える」というアンケートでは、「シェフは39名が男性、看護師は38名が女性、政治家は38名が男性、縫い物は40名が女性、料理は38名が女性」と回答しており、男女は平等であることを理解している生徒の心の中にも、自分では気付いていない男女の固定的な役割分担意識や差別、偏見があると考えられた。

そこで授業では、まず導入の部分で「平成24年度会津若松市男女共同参画に関する意識調査報告書」のデータを使って、「学校教育の場」・「職場」・「家庭生活」・「政治」・「社会全体」など、それぞれの場面で会津若松市民の何%が「男性が優遇されている」と感じているのかを確認し、そこから社会において「男女平等」が十分に実現できていない現状を読みとった。その後、4～5人の男女混合グループに分かれ、「女性が社会でどのようなことに抑圧を感じているのか」をテーマに、カードを使ってディベートを行った。そして最後に、事前に実施したアンケートの結果を見せながら、生徒の心の中に無意識にあった男女の固定的な役割分担意識に気付かせ、男らしく、女らしくではなく、一人一人が人間らしく多様な生き方ができる社会の実現こそが重要であることを生徒に伝えた。

### 児童生徒の感想

- 自分の中で女性はこれで、男性はこれで・・・という感じに、当たり前に分けて考えているところがあったので、考えさせられた。
- 社会では女性の立場が弱くなってしまいうような風潮がまだあるのだと気付いた。昔よりは改善されていると思うが、社会全体で考えるべき問題だと思った。
- 自分の中にある固定観念や男女差別について考えるよい機会になった。男性にも差別をしてはいけないと思う。差別されているのは女性だけではない。
- 難しい内容もあったが、ゲーム形式だったためわかりやすかった。将来は2人で家事をして、お互いの負担が少なくなるよう支え合っていける家族をつくりたい。
- 男女両方の目線で話し合えたのでよかった。

### 参観者の感想

- 生徒一人ひとりが様々なテーマについて考え、意見を述べることによって、男女共同参画社会について意識するきっかけとなっていたと思う。最後に、生徒が意識を変えるために自分であることを提案できたら、よりよいまとめになったかと思う。
- 生徒がゲーム形式の活動を通して活発に意見を交わしており、各生徒のジェンダーへの理解が深まったと思う。

### 指導者の感想

学校教育の場は男女平等について配慮されているため、男女の固定的な役割分担や社会での女性への抑圧について、生徒はこれまであまり意識したことがなかったようである。しかし、授業後の感想では、「女性の抑圧について考えることができた+まあまあできた」と答えた生徒が100%、「自分の中にある性別役割分担意識に気付くことができた+まあまあできた」と答えた生徒が98%（残り2%は「もともとなかった」という答え）という結果になっており、生徒はこの授業を通して自分の中に刷り込まれていたイメージや固定観念に気づき、男女共同参画社会実現の重要性への理解を深めるきっかけになったと感じる。この授業を実施したのは1年生である。まさに青年期の真っ只中にいる生徒たちは、アイデンティティを確立するため悩み苦しんでいる最中である。その模索の中から得られる自分らしさを、男性も女性も誇りをもって実現できる社会であることが重要である。この授業だけで終わるのではなく、今後もさらに教育活動全体を通して、男女共同参画社会の実現に向け、自分たち一人ひとりが何をできるのかを生徒に考えさせていきたい。

#### 実施状況

##### ○ ねらい

- ・ 毎日の食事に関心を持たせるとともに、食についての男女共同参画を理解させる。
- ・ 男女が互いに協力し、家庭及び社会の一員として食の自立の一步になるよう認識させる。

##### 【導入】

前日の給食献立を提示し、献立の食品に含まれている栄養素によって、3つあるグループのどこに入るかを考える。

##### 【展開】

調理実習で作るみそ汁の実の組み合わせについて、栄養のバランスを考えながら、男女混合のグループで話し合う。

##### 【終末】

宿泊活動の写真を提示し、野外炊飯で男女が協力して取り組んだことを想起させることで、これからの学校生活においても男女が互いに協力し、尊重し合うことが大切だということを話してまとめる。

#### 児童生徒の感想

- みんなで栄養素のことを考えてみそ汁の実を決めるのはとても楽しく、よい勉強になりました。男の人でも家事ができればいいし、楽しいと思います。
- 男女で協力して料理を作ることは大切だと思いました。栄養やバランスを考えて献立を作ることが大変だということが分かりました。
- 栄養を考えながらみそ汁の実を選ぶのがとても楽しかったです。男女が協力することはとても大切だと思いました。

#### 参観者の感想

- 男女がとても仲のよいクラスだと感じました。調理実習だからと言って、どちらがでしゃばるでもなく、互いにアイディアを出し合って学習していました。
- 一人一人が課題をしっかりと把握し、その解決に向けて取り組んでいました。グループでの話し合い活動では、互いの考えや意見を尊重しながら進めていて、日頃からの人間関係が円滑であることが分かりました。
- 献立づくりを男女仲良く話し合っている姿がとてもほほえましかったです。授業のまとめで、男女が協力することの大切さに触れたのもよかったと思いました。

#### 指導者の感想

家庭生活のあり方が多様化している現在、男女関係なく一個人として食の自立ができるようにさせたいと考え、この授業を行いました。

5年生の家庭科は、衣食住に関する初歩的な内容を学習するので、日々の授業そのものが男女共同参画だと感じています。家庭科で学んだことを日常生活で実践できるように努めていきたいと思っています。



### 実施状況

自身の性、異性について考える中で、男女共同参画社会の概念について理解させるとともに、ライフステージの中の青年期から中年期における健康づくりの問題点や解決策について考えさせることを目的とした。日常生活の中で、現在、近い将来に起こりうる「学校生活で良好な人間関係を築く」「職場での精神的なストレスを防ぐ」「健康的な家庭生活を維持する」という3つの観点について考察させるようにした。

授業の実施に際しては、ワークシートを活用し、現代の働く女性などを示しながら、男女共同参画社会の概念について理解させ、上記3つの観点について男女共同参画の立場で考えさせ、グループで話し合う中で、各ライフステージにおける「健康」について考察が深まるようにした。

### 児童生徒の感想

- 男女の視点・考え方が違うということが分かった。
- 男女共同参画社会が叫ばれる現代において、自分がどのような立ち位置を取るべきか考えさせられる有意義な時間であった。
- 男性であれ、女性であれ一人の人間として自分らしく生きることが大切であると思った。
- 日常生活の身近なところから男女の隔たりがなくなったりして、LGBTなどのセクシャルマイノリティの人たちの存在が認識され、認められたりしてほしいと思った。

### 参観者の感想

- 教員の呼びかけに対する生徒の反応など、動きがあり生徒が積極的に取り組んでいた。
- 話し合いの際の生徒の雰囲気が非常に活発であり、クラスの雰囲気が良いと感じた。
- つかみどころのない題材について考えさせるような策が練られており工夫を感じた。こういう題材なのでもっと事例を出してあげるとさらにわかりやすかったように思う。
- 始めに修学旅行の班ごとになるよう席替えをしていたが、そのせいもあって話し合いが活発に行われている感じがした。

### 指導者の感想

これから時代を担う生徒たちにとって、男女共同参画社会を身近なものとしてとらえ、自分なりの意見を持つきっかけになればと思い授業を行った。概念は身近でも、あまりそこまで考え生活したことはないようで、とっつきにくい内容なのではないかという不安もあったが、男女共同参画について考え、健康的な生活を送るためにどうしていくかという観点での話し合いを活発におこなっていた。生徒の感想にもあったように、これをきっかけに、男女という性別にとらわれず、社会で「自分」を発揮しながら、健康に留意して生活を送ることができるようになってくれればと願う。